

‡ 地域振興<6次産業化認定者の取組事例>6‡

牧場って最高！景観と癒しと食を提供 根室地域の酪農の魅力をアップ 根室市 有限会社伊藤畜産

北海道農政事務所釧路地域拠点 主任農政業務管理官

のぐち たくや
野口 卓也



1. はじめに

根室市で広大な敷地内に、フットパスをはじめ酪農体験や喫茶店・レストラン事業、動物たちと触れ合えるミニ動物園等を総合的に整備し、景観と癒しを提供する有限会社伊藤畜産をご紹介します。

伊藤畜産は根室市明郷地区で搾乳頭数約160頭で生乳生産をする傍ら短角牛を飼養し肉用牛の生産も行っている酪農家です。

いきなりですが、皆さんフットパスをご存知でしょうか。

「フットパス」とはイギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小路（こみち）【Path】』のことです。（日本フットパス協会より）

2. 酪農家集団 A B -MOBIT の設立

平成15年有限会社伊藤畜産の伊藤代表と同年代の仲間4人が「酪農家集団A B -MOBIT」を設立し、酪農を取り巻く自然環



写真1 根室フットパス・厚床パス
「もの思いにふける丘」

境や地域の魅力を多くの人たちに伝えるため、根室市厚床周辺の牧場と景勝地をつなぐフットパスを整備しました。

「癒しの空間をたくさんの人と共有したい」、「おいしい牛乳の素になる牧草畑を見てほしい」そんな酪農家の思いが詰まった手作りの散歩道で、牧草地の真ん中を歩く解放感を味わえる場所となっています。

しかし、当牛のえさである牧草地に入れるということに反対する方もいたと聞きます。そのため、AB-MOBITでは来場した観光客に一定の規制の下で牧草地に入っているというルールの意識付けを行うためマップを購入しフットパス体験を行ってもらうことにしました。おかげでフットパスを整備している牧草地にゴミなどが落ちていることはないということです。

ちなみに AB-MOBIT とは厚床から別当賀地域に点在する5人の酪農家グループの名前の頭文字から付けた名称です。

3. レストラン「ATTOKO」のオープン

フットパスの本場イギリスでは村のパブに立ち寄りながらウォーキングを楽しむ習慣があると聞き、平成18年にカフェ&レストラン酪農喫茶Grassy Hillをオープンし北海道産の素材を使った料理やデザートの提供を始めました。

そんな中でフットパス体験に訪れたお客様から食事をしたい、酪農体験をしたい、また、地元の製菓会社や道の駅などから自社生産原料乳を使用したソフトクリーム・

菓子類の取り扱いを求める声があがりました。

伊藤代表も、自社で生産された原料を活用した事業展開の必要性を認識していたことから平成 23 年 10 月に「自社生産原料乳を活用した菓子類の開発及び自社短角牛の商品化事業」として六次産業化・地産地消法の認定を受け、平成 26 年 5 月にはハード事業の補助金を活用し乳処理工場を併設したレストラン「ATTOKO」をオープンしました。



写真 2 レストラン ATTOKO

レストランではソフトクリーム・ミルクシフォンケーキ等の販売、短角牛肉を使用したステーキ料理等を提供するほか、クリスマス・正月等イベントごとに HP を活用した料理の販売を行っています。今年 4 月にはフード・ディレクターでもある貫田佳



写真 3 和牛・明郷短角牛のサーロインステーキ

一氏が監修しメニューのリニューアルも行っています。

また、レストランが旅行代理店によるフットパスを利用したツアーコースに設定されているほか、乳搾り・バター作りなどの酪農体験、ヤギやウサギと触れ合えるミニ動物園、喫茶店をイベント開催の場所として提供し、地域の観光・交流の拠点となつており、2,000 人程から始まった来場者は今では根室市的人口に匹敵する年間約 2 万 5 千人の方が全国から訪れるようになりました。

こういった取り組みもあって近郊への観光客も増加し、周りの酪農家も飲食店の経営や加工品の販売を始めるなど地域全体の活性化に繋がっており、平成 28 年からは短角牛を使用した加工品がふるさと納税の返礼品にも採用されて好評を得ています。

6 次産業化に取り組む際の課題であった労働力の不足と枝肉や製品の安定した提供については、インターネットによる求人やインターンシップの学生を積極的に受け入れることで労働力の確保を行い、冷凍施設の設備をしたことにより、商品の安定的な提供が可能となりました。

今後もフットパスなどの活動を通じ、牧場が持つ景観と安らぎを市民や観光客とともに共有し根室市にとどまらない観光資源やランドスケープにしていきたいとのことです。



写真 4 みるくシフォン